

東京湾から得られたマトウトラギス *Parapercis ommatura*

(スズキ目：トラギス科)

萩原清司*・工藤孝浩**・岩下 誠***

Notes of *Parapercis ommatura* (Perciformes: Pinguipedidae) collected from
Tokyo Bay.

HAGIWARA Kiyoshi*, KUDO Takahiro** and IWASHITA Makoto***

キーワード：マトウトラギス，トラギス科，分布，東京湾

Key words: *Parapercis ommatura*, Pinguipedidae, distribution, Tokyo Bay

マトウトラギス *Parapercis ommatura* Jordan & Snyder はこれまで、生時または生鮮時の色彩について詳細な記載が行われていなかった。2004年に東京湾から得られた標本により、背鰭先端の赤色斑、赤紫を呈する腹部など、種特異的な色彩と斑紋を有することを確認したので報告する。標本は横須賀市自然・人文博物館魚類資料 (YCM-P) として収蔵した。

Parapercis ommatura Jordan & Snyder didn't have detailed description about the color pattern at a live and a fresh specimen. The specimens that were collected from Tokyo Bay in 2004 were kept in Yokosuka City Museum Pisces collection (YCM-P), and those color photos were observed in this time. As a result, we confirmed the unique color pattern with the red spots on the tip of the dorsal fin and the red-purple side.

はじめに

マトウトラギス *Parapercis ommatura* Jordan & Snyder は、瀬戸内海および南日本の太平洋岸から南シナ海にかけて分布することが知られるスズキ目 (Perciformes) トラギス科 (Pinguipedidae) の魚類である。本種は、瀬戸内海や四国沿岸などでは底曳網によって時折漁獲されるが、東京湾からの記録は工藤 (2005) による報告のみである。また、底曳網漁獲物による標本は損傷を受けている場合が多く、これまで紹介された生鮮標本および生態写真 (岡村・尼岡, 1997; 清水, 1997) からは十分な

色彩情報が得ることができない。

横須賀市自然・人文博物館には、未発表標本2個体および工藤 (2005) が報告した1個体の、計3個体の東京湾産マトウトラギス標本が保存され、その生時 (水槽内) および生鮮標本が撮影された。ここでは、東京湾産標本に基づいた形態と生鮮時色彩および東京湾産マトウトラギスの採集状況について報告する。

本報をまとめるにあたり、現地での採集に協力をいただいた相模湾海洋生物研究会々員の諸氏、早川厚一郎氏、および工藤航平氏に厚く御礼申し上げる。

* 横須賀市自然・人文博物館 〒238-0016 横須賀市深田台95

** 神奈川県水産技術センター 〒238-0237 三浦市養老子

*** (社) 日本水産資源保護協会 〒104-0054 東京都中央区勝どき2-18-1

原稿受付 2006年10月30日 横須賀市博物館業績605号

***Parapercis ommatura* Jordan & Snyder, 1902**

マトウトラギス

(Fig.2-4)

Parapercis ommatura; Jordan and Snyder, 1902*Cilius ommatura* マトウギス; 松原, 1955*Parapercis ommatura* マトトラギス; 阿部, 1963*Parapercis ommatura* マトウトラギス; 岡村, 1984**材料:** 供試標本の採集地点図を Fig.1 に示した。

YCM-P40546 (2 個体, 体長 97.6, 99.0 mm, Fig.2-4)

20040613, 横須賀市夏島沖, 水深 6 ~ 12 m, 岩下 誠・

工藤孝浩採集。YCM-P42394 (1 個体, 体長 106.5 mm)

20040717, 横浜市八景島沖, 水深 12 m, 工藤航平採集。

形態: 背鰭 V, 22; 臀鰭 I, 18; 胸鰭 17; 腹鰭 I, 5; 縦列鱗数 57 ~ 58; 横列鱗数 15 ~ 16; 脊椎骨数 9+21=30。体は伸長した紡錘形で, 後方ではわずかに側扁する。吻はやや尖り, 下顎がわずかに突出する。背鰭は棘部と軟条部の間に欠刻があり, 鰭膜は各鰭条の間に深く切れ込む。尾鰭は上部で截形, 下部でやや丸く, 上部の鰭条は伸長しない。**生鮮時の体色** (Fig. 2, 3): 地色は褐色で, 背部で濃く, 腹部で淡い。背鰭は先端が赤色で鰭膜の切れ込みによって分断された点列となり, 棘部の鰭膜は基部付近で暗褐色, 軟条部の鰭膜には褐色縦線が 2 ~ 4 列ある。臀鰭は淡褐色で先端は赤褐色。胸鰭は半透明で斑紋は無い。腹鰭は生時が乳白色 ~ 灰色で, 死後直ちに黒色となる。上顎から眼下および上顎から鰓蓋後端にかけて, それぞれ

1 本の暗褐色縦線がある。体には 4 個の暗褐色の鞍掛け状斑があり, 2 番目以降では体側で不明瞭な V 字斑となる。腹部は金属光沢のある赤紫色を帯びる。胸鰭基部から腹鰭基部は白色。尾鰭基部上端に眼径とほぼ同大で白く縁取られた 1 対の眼状斑がある。尾鰭には赤褐色斑が散在し, 下部 1/3 ~ 1/4 が暗褐色, 全体は赤褐色で縁取られる。

固定後の体色 (10%ホルマリンで 1 ヶ月間固定の後, 70%エタノール中で約 2 年間保存した資料に基づく; Fig. 4): 背部は暗褐色, 体側は淡褐色, 腹部は白色。頭部の縦線や体側の暗褐色横帯, 尾鰭基部の眼状斑は固定後もよく残る。腹部の赤紫色および背鰭先端の赤色斑は消失する。**採集状況:** 採集地は横須賀市と横浜市の市境に近い, 横須賀市夏島沖および横浜市八景島沖であった。採集時は, 水深 6 ~ 12 m の水域でアオゴカイを餌としてシロギスを中心とした五目釣りを行っており, シロギス, ニラミアマダイ, ハタタテスメリ, イトヒキハゼ, リュウグウハゼ, サビハゼ, カサゴなどととも釣獲された。他種との識別: 本種は尾鰭基部上方に黒斑を有する点で同科の *Kochichthys flavofasciatus* (Kamohara) キスジトラギス, *Parapercis sexfasciata* (Temminck & Schlegel) クラカケトラギス, *P. okamurai* Kamohara ソコトラギスなどに類似する。しかし, 生時の本種においては背鰭先端の赤色斑や赤紫色を呈する腹部など種特異的な色彩を有していた。また, 固定標本においても有効な識別形質としては, 頬部に褐色の縦線があること, 背鰭の棘部と軟条部が深い欠刻によって明瞭に分かれること, 体側に不明瞭な横帯を有することなどがああり, これらによって他種と容易に区別できる (Shimada, 2002)。**東京湾における生息状況:** マトウトラギスは本報告の供試標本以外には東京湾からの採集例は確認できない。しかし, これまで西日本に分布し, 1996 年以前には東京湾で確認されていなかったウロハゼ (木村ほか, 1997; 岸ほか, 2002) や, 東京湾では稀であったニラミアマダイ (大栗ほか, 2004) が近年頻繁に採集されるようになってきている。仮に, このような魚種の増加が東京湾内の環境変化に伴うものだとすれば, 同様に西日本に分布する本種が, これらの種と同様に東京湾における生息数を増加していく可能性もある。今後, 東京湾における本種の出現と, それに伴う生態系への影響について注目したい。**引用文献**

阿部宗明 1963. 原色魚類検索図鑑. 358 ページ. 北隆

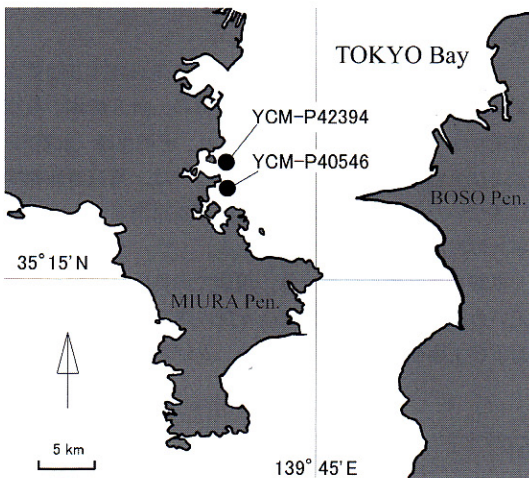
**Fig. 1** Sampling points, 採集地点図



Fig. 2 *Parapercis ommatura*, マトウトラギス, YCM-P40546-1, aquarium photo, 水槽写真

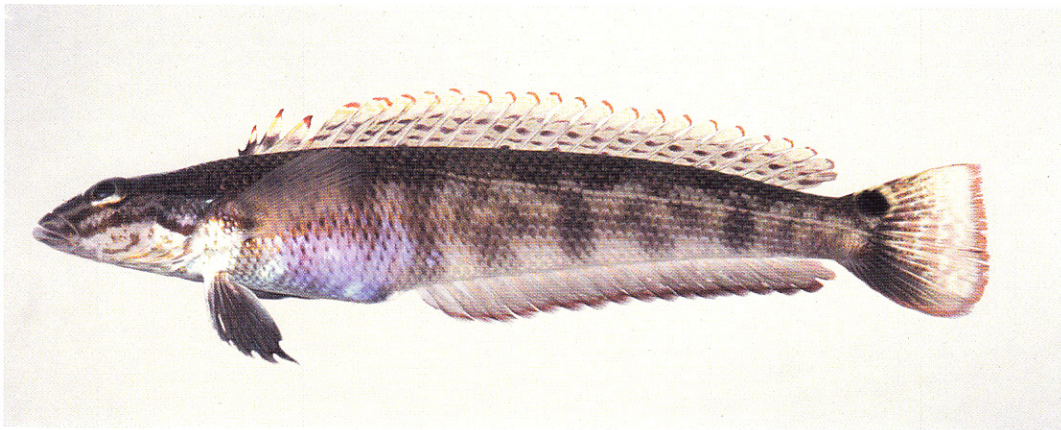


Fig. 3 *Parapercis ommatura*, マトウトラギス, YCM-P40546-1, fresh specimen, 生鮮時標本

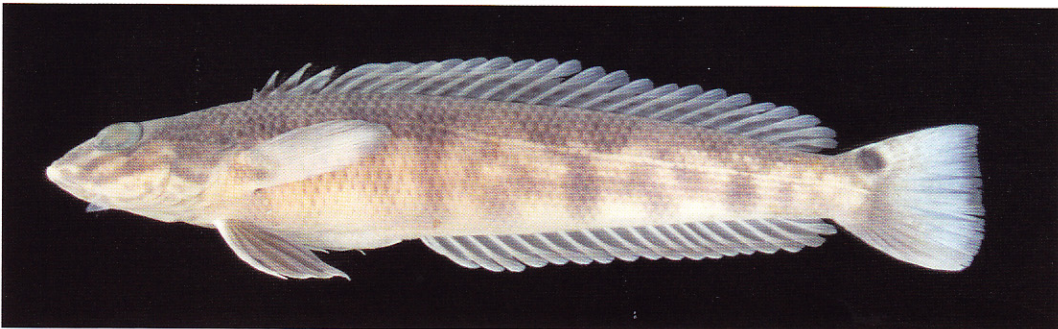


Fig. 4 *Parapercis ommatura*, マトウトラギス, YCM-P40546-1, stock specimen (70% ethanol), 70% エタノール保存標本

館.

- Jordan D. S. and Snyder J. O. 1902. A review of the trachinoid fishes and their supposed allies found in the waters of Japan. *Proc. U. S. Natl. Mus.* :461-497.
- 木村喜芳・萩原清司・中根基行 1997. 神奈川県産淡水魚5種の分布に関する新発見. 神奈川自然誌資料, (18) : 79-82.
- 岸 由二・平山康弘・鶴見川流域ナチュラリストネットワーク 2002. 鶴見川河口・下流域におけるウロハゼの増加. 慶応義塾大学日吉紀要・自然科学, (31) : 53-61.
- 工藤孝浩 2005. 横浜, 川崎および中の瀬海域から初記録の魚類 - IV. 神奈川自然誌資料, (26) : 75-77.
- 松原喜代松 1955. 魚類の形態と検索 I. 789 ページ. 石崎書店.
- 岡村 収 1984. マトウトラギス. 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫編日本産魚類大図鑑解説 : 279. 東海大学出版会.
- 岡村 収・尼岡邦夫編・監修 1997. 山溪カラー名鑑・日本の海水魚. 783 ページ. 山と溪谷社.
- 大栗賢史・岩下 誠・萩原清司 2004. 今月の魚, ニラミアマダイ. *I.O.P. DIVING NEWS*, 15(6) : 1.
- Shimada K. 2002. Pinguipedidae. In Nakabo T. ed. *Fish of Japan with pictorial keys of species, English edition* :1059-1064. Tokai Univ. Press, Tokyo.
- 清水孝昭 1997. 今月の魚, マトウトラギス. *I.O.P. DIVING NEWS*, 8(1) : 1.